



仁淀川町

2014.5 第35号

議会だより



新体制議会

臨時会・三月定例会

議長	岡田 良成 氏
副議長	野村 安夫 氏
総務教育民生常任委員長	西森 常晴 氏
産業建設常任委員長	西森 久雄 氏
議員選出監査委員	藤村良太郎 氏

初定例会 傍聴者23名 期待に沿えた議会？	4P
一般質問（新人議員・初陣）	4～11P
コラム 仁淀川町への移住者に聞く	8～ 9P
町長行政報告	12P
平成26年度仁淀川町の予算	13P
議長 一口メモ	18P

高知県仁淀川町議会

TEL 0889 (35) 0111 / FAX (35) 0571 / 発行人: 議長 岡田良成 / 編集: 議会だより特別委員会 / 印刷: 資佐川印刷所

議長に岡田良成氏

副議長に野村安夫氏

1月19日の議会議員選挙で選ばれた10人の初議会が
2月8日に開会された。

議長・副議長あいさつ



岡田良成議長
(3期目)

この度、不肖、私は議員多数の皆さんがたの推挙により議長職の要職に就任させていただきました。私は浅学非才であります。議長として推挙を受けたうちは、身を挺して町民の思いに応え、信頼される議会運営につとめてまいります。

仁淀川町を取りまく環境は少子高齢化や過疎化が進み、大変厳しい社会情勢に突入している今日であります。町の発展のために専心、努力いたす所存であり、なにとぞ格別のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



野村安夫副議長
(3期目)

このたび、議員皆様のご支持によりまして、副議長の要職に就任をいたしました。大変名誉なことですが、同時に責任の重さを痛感しているところでございます。

もとより未熟な私ではございますが、議長を支える調整役に徹し、議会が公正かつ円満に運営されますよう誠心誠意、努力してまいりたいと思っております。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

議会運営委員会

委員長 藤崎 源彦
副委員長 片岡 智準
委員 西森 常晴
" 藤村良太郎
" 西森 久雄
" 野村 安夫

議会だより特別委員会

委員長 片岡 智準
副委員長 藤村良太郎
委員 西森 久雄
" 竹本 文直
" 藤崎 源彦

総務教育民生委員会

委員長 西森 常晴
副委員長 片岡 智準
委員 片岡 政徳
" 藤村良太郎
" 野村 安夫
" 岡田 良成

高吾北広域町村
事務組合議会議員

議員 片岡 智準
議員 野村 安夫
議員 岡田 良成

産業建設委員会

委員長 西森 久雄
副委員長 藤崎 源彦
委員 若藤 敏久
" 竹本 文直
" 野村 安夫
" 岡田 良成

国民健康保険運営協議会
委員の公益代表委員

議員 竹本 文直
議員 藤崎 源彦
議員 野村 安夫

議員選出監査委員

藤村良太郎

国道439号改良促進
特別委員会

委員長 西森 久雄
副委員長 竹本 文直
委員 藤村良太郎
" 片岡 智準

林道桐見川白石川線
管理組合議会議員

議員 西森 久雄
議員 野村 安夫
議員 岡田 良成
(平成26年3月31日解散)

(氏名は議席順)

各議員の委員会所属など紹介

 西森 久雄	◎ 産業建設 ◎ 国道439号 議会運営 議会だより 議席番号 5 番 (4 期目)	 西森 常晴	◎ 総務教育民生 議会運営 議席番号 1 番 (4 期目)
 竹本 文直	○ 国道439号 産業建設 議会だより 議席番号 6 番 (1 期目)	 片岡 政徳	総務教育民生 議席番号 2 番 (4 期目)
 片岡 智準	◎ 議会だより ○ 議会運営 ○ 総務教育民生 国道439号 議席番号 7 番 (1 期目)	 若藤 敏久	産業建設 議席番号 3 番 (4 期目)
 藤崎 源彦	◎ 議会運営 ○ 産業建設 議会だより 議席番号 8 番 (1 期目)	 藤村 良太郎	○ 議会だより 議会運営 総務教育民生 国道439号 議席番号 4 番 (1 期目)

◎は委員長

○は副委員長

委員会 議会運営・・・「議会運営委員会」
総務教育民生・・・「総務教育民生常任委員会」
産業建設・・・「産業建設常任委員会」
議会だより・・・「議会だより特別委員会」
国道439号・・・「国道439号改良促進特別委員会」

新人議員 初陣！ (一般質問)

満席の傍聴席 町民の期待に沿えたか？

町長の政治姿勢について 「らしさ」とは



答 仁淀川の資源を活用

問

竹本文直

町長は事あるごとに、仁淀川町らしさを活用した町づくりと言われているが「らしさ」は人それぞれ違う、町長の考えは。

答

町長

仁淀川町らしい町づくりとは地元の優れた物、自慢できる物を活かし、物まねでなく地域の個性や資源を活用した町づくりを目指す。

問

竹本

もう少し具体的に述べていただきたい。全国に誇れる町にするために特徴をどのように出していくのか。
公共施設を全て町産材でやるくらいの方角性を出して欲しい。

答

町長

本町は一次産業、農林業が基幹産業なので林業、お茶その他の物をうまく繋げて活かしていく。

子育て支援について

問

竹本

高校への通学費が高額

答

町長

なため、家族ごと町外に出て行く実態がある。通学費全額支援できないか。

問

竹本

子育て支援として色々の施策をしているが、年額18万円を54人の方に通学支援をしている。地元から通学していない生徒が半数以上いるので全額支援は難しい。

答

町長

佐川高校だけでなく各地の高校へ通っているのどこまで支援できるか、色々の意見をいただき良い方策を検討していく。

災害対策について

問

竹本

災害避難所の箇所数・安全度・耐震化はどうか。

答

町長

避難所は地域防災計画で指定しており、水害時、吾川地区25カ所、仁淀地区22カ所、池川地区31カ所。地震の時、吾川8カ所、仁淀10カ所、池川10カ所で、学校施設は耐震化している。集会所などはできていない。現在計画の見直し中である。

問

竹本

どこが避難所か分かっていない地区がある。広報をしっかりとって地域の方と話し合いのうえで進めて欲しい。

答

町長

そのように進めていく。

公共施設のトイレについて

問

竹本

高齢化が進む中で公共施設に洋式トイレが少ない。早急に整備すべきではないか。

答

町長

新築の施設については洋式を取り入れ、既存については高齢者や障がい者の利用が多いところはなるべく早く改修していく。

問

竹本

池川のコミセン4階のトイレを早急に改修してほしい、高齢者が苦勞をしている実態がある。

答

町長

池川支所はエレベーターを含めなるべく早く改修を進めていきたい。

問
藤崎源彦

廃屋と化し、倒壊の危険がある建物は撤去を促進し、住居として活用できる建物は利用を促進する必要がある。
この対策について方向性はどうか。

空き家について

答

状況に応じた対策検討



答

町長

撤去促進について、空き家は個人の所有で勝手に扱えない。しかし、老朽化により住民生活に危険な環境にある空き家は、現状の把握や撤去費用の助成をするなどの対策を検討する必要がある。

一方、利用促進については、移住希望者の住居として募集しており、企画課を窓口として移住相談員と地域おこし協力隊員が活動している。

トマト団地の整備について

問

藤崎

トマト団地のスカイファームでは、夏場のフルーッとトマトとしては全国的にも珍しいぴゅあトマトを生産している。
県内では、てっぺんトマトとともに仁淀川町の特産品として定着し、地域に貢献している事業である。
スカイファームの建設

はどのような補助事業を活用したのか。また、林道中線からハウスに至る道路の管理者はどこか。

答

町長

農業改善構想事業で整備された事業で、道路は農道として整備し、町の管理である。

問

藤崎

この農道は延長250mが未舗装であり、勾配があるうえ凹凸が激しく危険である。舗装をしてはどうか。

答

町長

地域の意見も聞き、舗装の検討をする。

夢の森公園について

問

藤崎

中津溪谷は、吾川スカイパーク、ゆの森、しもなの郷、そして夢の森公園を一体とした主要な観

光エリアである。

夢の森公園の年間利用者数及び近年の推移を把握しているか。

答

大野産業建設課長

年間600人程度が利用しており、近年変動はない。

問

藤崎

この公園の利用者は、小さい子ども連れの家族が多い。自然体験を通じて遊ばせる目的であろう。しかし、以前あった木製遊具は老朽化により撤去されて遊具が少なく、魅力に欠ける。自然を活かした観光事業として遊具も含め整備して欲しい。

答

町長

中津川流域は、本町の観光スポットとして重要である。いろいろな観光客を呼び込むためにアイデアを出し合い、観光振興に必要なれば検討する。



トマト団地へ通じる農道



夢の森公園

過疎対策は法が制定さ

答 町 長

仁淀川町の人口は減少、
昨年末で約6千300人。
町長の過疎対策は。

問 片岡智準

町長の過疎対策への 意気込みは

答

本町で生活したいと思う
環境づくり



れ、四次に渡り取り組んでいる。公共施設の整備水準に格差があり、過疎化を抑制する事は難しいが、子育て環境、高齢者の生活環境の充実を図り、本町で生活したいと思う環境整備を推進し、この魅力を発信、移住促進に繋げ、地域活性化計画を予算計上した。

問

片岡(智)

提案を交え再質問する。過疎は若者が少なく、次代を担う子どもが生まれない。なぜ若者が少ないか。雇用がない、高校がない、子を持つ親の心配は子どもの将来。

学校はこの先、就職先は、世の中は、不安が募り過疎少子化を迎えている。親・若者は希望の見える仁淀川町を待っている。高校がなければ佐川までのバスの送迎など目に見える行政を望む。

今後は、安全・安心と希望の見える事業の立ち上げが不可欠。当面は、移住定住対策に重点指向して推進されたい。

答

町 長

本町には豊かな自然、歴史や伝統文化があり、良さを最大限生かし、安心して心豊かに暮らせる町を目指す。確かに高校はなくなり厳しいものを感じ、残念だが限られた予算。今後は意見を反映し、具体的な計画を進めたい。

問

片岡(智)

スクールバスの送迎は。

答

町 長

年間18万円で対応したい。

仁淀川町の活性化 対策について

問

片岡(智)

活性化には、他に誇れる「自然環境と水質日本一の仁淀川」これを最大限に生かした、政策が望まれるが具体策は。

答

町 長

町の90%を占める山林の活用が重要と考え、町産材の利用政策を講じている。

また、仁淀ブルーを売りの観光や農産物販売を考えている。過疎地域自立促進計画を策定し事業を実施しているが、今後は提案も含め具体的に進めたい。

問

片岡(智)

町民目線で再質問する。仁淀川町の活性化は自然を生かした観光事業がベスト。しかし、現況では「おもてなしの心」が全くない。観光案内所は大渡ダム上、国道引地橋から橋洞門の間、飲食店は全て閉鎖、自販機も1カ所、お茶いっぱいも飲めない、地域標識や観光スポットの案内板が少ない。「ないものばかり」観光事業が成り立つのか。
秋葉さんの観光客弁当持参、弁当は売られていない。喉が渇いてもお茶一杯飲めず。



廃業されたレストラン (R33)

久喜の沈下橋を聞かれるが通り過ぎた後。これでは観光事業は成り立たない。あまりにも不親切。もったいないのは弁当ひとつ売られず経済効果が全くない。ない物尽くして町が活性化するはずがない。

建設し旧三町村の飲食店などにイベント情報の提供、観光物産の販売促進を働きかけ、標識やトイレの設置等可能な物から順次進めることを提案する。過疎対策も活性化対策も車の両輪、どちらが進んでも人口増加に期待が持てる。

今後は、合併のシンボリックな「多目的施設」を

答 町 長

私も同感。県も観光振興に力を入れている。本町も仁淀ブルーを売るため、観光協議会を立ち上げ、観光窓口の一元化を図るなどしており体制が整えば指摘された案件を順次整備し「おもてなし」の心に取り組みたい。

地震発生時、被害最小化マニュアルは

問 片岡（智）

南海地震発生時の被害最小化マニュアルに。要望、希望を含め3点お願いする。
一 職員に対して起震車震度体験をさせる。
二 町民にメールを徹底する。
三 町内の重機保有者などと綿密な連携。

答 町 長

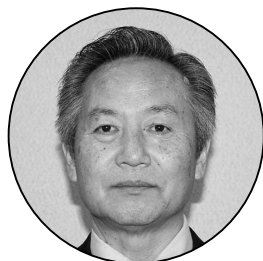
地震は予期せぬ時にきます。予想では、6弱から6強の状況です。これ

までに経験したことのない揺れであり、起震車による体験、また通信手段の確保、脆弱な地形による山崩れ、落石、深層崩壊の問題への対応など建設業界とも災害協定を結び、順次防災計画の整備を進めている。

答 竹本総務課長

町内の防災組織は92%となっており、この協議会を結成した。この協議会の場で情報交換、勉強会を実施し、起震車体験、メールの活用など周知徹底させていきたい。

教育版アクションプランを予算化



教育長行政報告 教育長 大野 敏光

本年度も残りわずかとなり、各学校では卒業式シーズンを迎えた。現時点では、小学校を卒業する児童が37人、中学校を卒業する生徒が42人の見込みである。

また、4月に入学する予定者は、小学校が25人で、3校での児童総数は167人、中学校へは32人が入学し、生徒総数は114人の見込みである。

今年度末で池川小学校へ統合する大崎小学校では、学校間で児童の交流や教職員の協議の場などを設け、支障なく新学期を迎える準備が進んでいる。

また、大崎小学校閉校記念行事は、3月22日に実施する。

次に、放課後子ども教室は、池川小学校の希望者が17人で、場所は旧池川幼稚園だが、新年度に小学校体育館1階を改造して移転する予定であり、その経費を当初予算に計上している。

また、長者小学校の希望者は6人で、場所は、仁淀総合支所長者出張所である。なお、別府小学

校は希望者数が基準に満たないため、実施できない。

次に、当初予算では、義務教育9年間を見据えた保・小・中連携教育、学力向上対策、生きる力を育むキャリア教育の推進、また不登校や支援の必要な児童生徒への早期対策や心のケア、子育て支援センターを拠点とした相談活動の充実といった、教育版アクションプランを予算化し、実効性のある教育に取り組む。

また、読解力向上のため、読書推進事業を引き続き実施する。

最後に、大崎小学校の今後の利用として、校舎1階を保育所、2階を多目的施設に改造する設計業務費を繰越し、設計が決まり次第、改造工事費を補正予算で計上するなど、早期の着工に取り組む。



大崎小学校閉校記念式典



選挙時の放送がなぜ 最後のみだったのか？

答

町民の意見を反映

問

西森久雄

この度の選挙でこの場に立たせていただき、誠にありがとうございます。心機一転頑張りますのでよろしくお願いいたします。

選挙時の放送がなぜ最

答

町長

後のみとなったのか、住民に周知をしていたのか。

旧仁淀村は、中間速報や開票結果を防災無線で放送していたが、旧池川町は、庁舎前に開票速報を掲示。旧吾川村は、開票場に掲示をするのみだった。

22年度の町議会選挙で旧仁淀村方式で行ったが、多くの苦情があったため、開票場の掲示と町のホームページ掲載とし、放送は結果のみとした。

問

西森(久)

多くの応援をしていた方々が、中間速報がなく大変心配をして下さった。放送はできないものか。

答

竹本総務課長

立候補数が多いと切れ目なく放送が流れ続け、苦情もある。今後住民の意見も参考にして決定していきたい。

コ ラ ム

仁淀川町への移住者に聞く！

☆移住して良かったことは？

「冷蔵庫、炊飯器がなくても生活が成り立つ喜びを知ったこと（薪を使った生活最高です）」

☆本町でどんな事をやりたいですか？

「食べ物を自給自足、お年寄りの知恵を学び、居住・生活空間を最大限に活かす。炭焼き・水車によるエネルギーの供給。」



左 松田さん

右 村屋さん

☆仁淀川町へ来てびっくりした事は？

「土佐の人（町民）お酒が強いのでビックリ。」

☆後悔はしていませんか？

「全くしていません。」

☆町民の印象は。

「考えられないほどの親切。70代でも元気で威勢が良い。（他の府県では考えられない親切心）」

移住者紹介

平成25年8月、千葉県千葉市から上名野川へ、2人一緒に移住してこられました。

○村屋 央（むらやてゝ）

45歳 男性

音楽家（インド楽器による演奏）

インドで6年勉強され、素晴らしい音色の楽器演奏をされます。

○松田 八千代

34歳 女性

マッサージ師（特に足裏マッサージが得意・リフレクソロジー）

趣味特技

ヨガ（度々入門されては地域再生）

☆町へ望む支援は。

「仁淀川町の自然を活かし、蘇らせ、心の豊かさを体験できる仕組み。今、あるものを活かす。荒地は元の自然に戻し、使っていない公共施設に、一人暮らしのお年寄りが集い、お菓子、お餅を作るなどの交流の場に変えること。」

町内の、とある地区に設置されている手すりだが、途中から個人の敷地内の階段につながっている。公益性はあるのか、また要望者は。

問

若藤敏久

公平な対処を

答

精査・検討公正に対応



答

大野産業建設課長

有志より「道路より50メートル上方で高齢者が急峻な坂道を上り下りしており手すりがないか。」と相談があり、区長から要望書も提出されたので、担当が現地確認のうえ設置した。半分が赤道で残りは生活道として利用されている。

問

若藤

お年寄りのために設置された手すりにとにかく言うつもりはなく、私からもお願いをする。

ただ、課長は言うこととやるが違う。

住民の直接要望に対しては「金が無い、果てが無い。」と門前払いをしているが、町内で生活をしている数千人の高齢者に対し、同様の対応ができるのか。

答

産業建設課長

指摘された件については、今後そのようなことのないように、内容など

充分精査、検討し、公正に対応していきたい。

問

若藤

選挙前には、無茶な要望もあり、議員も注意しなければならぬが、住民からの直接の要望にも公益性があれば対応していただきたい。

また、議場での答弁はいつまでも残っており、執行部全員忘れないように。

答

産業建設課長

町の高齢化率が50パーセントを超える中、安心して生活ができる環境改善には協力する。

答

町長

高齢化が進む中、地域の要望。実情を把握し、公正、公平な対応をしていく。

コラム続き

☆移住されるかたへのアドバイスをお願いします。

「便利さはなくても、自分が自然の一部を感じられ、心が豊かになります。荒れた空き家、荒地を蘇らす自己満足、日ごとに進む地域との良好な関係。都会で味わえなかった充実感、素晴らしい一語です。」

☆仁淀川町への希望やお気づきになったことは。

○松田さん

「とつても川がきれいなので、とってもいいところなので、残していけるようにそれぞれが持っているものをみんなで共有し、少ないエネルギーで豊かに暮らしていけたらいいと思います。」

○村屋さん

「仁淀川町は、まだぎりぎり昔の伝統が引き継がれています。そこには、人間生活の未来の姿があります。都市生活が成立していた安全神話は3・



相談員が移住者をサポートします

11の災害・人害により終わりました。今こそ昔からある当たり前の知恵に耳をすることです。生活のスピードを落とすことによって、見落としていた色々なものがどんなに豊かなものかを知るときです。

地球は壊れる一歩手前です。仁淀川町は昔の伝統（懐かしい未来像）がある町です。方向転換して新たな仕組みづくりをすれば、きっと心ある人々に注目されるように思います。個々にはそういったことを可能にできるたくさんの方が、たくさんアイディアが眠っているように思います。」

旧池川自然学園の閉園の意志決定が議会に示されたのは、2年前の3月議会だ。
 昨年の3月議会では、町長は諸般の報告で、今後は、移住促進の拠点施設と位置付けると言明しているが、地元の了解は得ているか。

問

西森常晴

ホースセラピーは

答

地元の理解が得られなかった



答

片岡企画課長

昨年の10月から3回地元で説明会を開いた。各回、15〜20人の出席があったが、町が今まで議会に説明してきた事業についての理解は得られなかった。

問

西森(常)

30年以上も前の話だが、某ゴミ処理場では、毎年施設に地元の住民を招いて林道清掃を行ったそう。

その日は、収集業者も一緒になって鮎を捕り、冷凍保存してあった猪肉を焼き、一杯やりながら地元の要望を聞いた。

普段からの交流が功を奏し、施設が老朽化し、建て替えとなっても地元から反対の声はなかったようだ。
 今回の地元への対応については、執行部に猛省を求める。

答

企画課長

今後は、地元と協議しながら進めていきたい。

問

西森(常)

昨年の9月議会で町長は「移住促進が主体だが、経済面でホースセラピーを考えている。」と答弁している。

指定管理料648万円は、ホースセラピーをすること、3年後には自立し、管理料はいらなくなるということであったが。

答

企画課長

利用者は癒されるが「地元は癒されない。」と馬を飼うことは地元から反対された。

問

西森(常)

説明会に参加した同僚議員2人が、地元住民から出席を拒まれたそうだが、本末転倒ではないか。いっそのこと、町は手を引いて地元で管理してもらったらどうか。

答

町長

地元の意見を聞いて、理解を得られる方向で検討していきたい。

庁舎建設については業者任せでなく

問

西森(常)

設計業者を応募(8業者)の中から、4業者に絞ったと聞いたが。

答

町長

4月に、4業者から出された提案書を審査し、設計業者を決める。

その後、基本設計を行い、実施設計に移っていく。

町の要請は、規模や外観、間取りや設備などを決める基本設計の早い段階で出していきたい。



仁淀川町移住交流拠点施設

問

西森(常)

業者任せでなく、町らしさを出した施設づくりを望む。

答

町長

利用者の利便性を第一に考え、悔いを残さない庁舎にしていく。

問

西森(常)

庁舎は、災害時には※ライフスポットとして重要な拠点となる。仁淀の庁舎もライフラインの寸断が予測される今日、重要なライフスポットとなる。手を抜かないで。

答

企画課長

職員一丸となって、町の象徴となるものと考えていきたい。

※ライフスポット

地震などの災害時に避難所として提供できる場所・建物。



有害鳥獣の被害は

答

25年度1月末 324頭

問

片岡政徳

三年間の有害鳥獣被害と捕獲駆除の状況、鹿による被害と捕獲状況、町内猟友会の現状と対策は。

答

町長

町内の被害と捕獲状況、平成22年度は205万1千円、383頭。23年度は、354万9千円、316頭。24年度は388万4千円、443頭。25年度は1月末まで324頭。内鹿は3年間で6頭、25年度は3頭となっている。

猟友会で、有害鳥獣駆除従事者は、仁淀川町鳥獣被害対策実施隊員に任命、地区隊員は池川42人、大崎21人、名野川19人、森17人、長者25人で隊員は、狩猟税の5割を減免、銃猟免許52人、内31人がワナ猟と重複し、ワナ猟のみ41人。平均年齢64歳、30代2人、40代8人、50代31人、60代41人、70代35人、80代7人となっている。防止対策は、新規狩猟免許取得者に講習費の全額補助、集落単位で侵入防止柵の原材料費全額助成をしている。環境の整備、地域間の協力、関係機関との連携が不可欠であり、支援をしていく。

問

片岡（政）

被害は、山が植林で餌場がないことも原因と考える。谷川周辺の植林を伐り、鳥獣の餌場を作っているかどうか。

答

町長

餌場を作るのも一つの方法と考えるが、設けると周辺に問題が出る可能性もあり、研究し環境整備にも取り組む。

移住促進について

問

片岡（政）

中山間地域の本町の描く移住促進の構想は。

移住者に対し、相談、情報提供の窓口を何人体制で対応しているか。空き家の把握状況と移住者の推移は。

答

町長

移住者の希望を把握し、楽しく暮らしていた

答

片岡企画課長

2人体制ではあるが、企画課の職員も係わっている。今後も状況により検討する。

町産材について

問

片岡（政）

地元業者の育成、地元経済の振興に、町内産資材を積極的に活用するための指導をどのように講じているか。

答

町長

町内産材使用の木造住宅の建築を促進し、平成22年度より24年度までに新築6件、増改築116件、本年度も新築4件、増改築56件の予定でこれらによる林積800㎡。この事業は国の交付金を活用している。平成26年度に終了だが、事業の継続を検討する。

町発注の建築工事は、町産林材使用の設計とし、仕様書でも指示をする。

答

町長

本町の特徴を活かした移住促進、豊かな水で育てた食材で作る田舎料理の味、作り方を移住者にも教え、働く場を進めてはどうか。2人体制では手薄ではないか。

地元と協議中の自然学園のあと地を移住の拠点施設として、豊かな自然と多くの伝統文化など田舎の良さを活かし、雇用の場の確保も考え取り組む。



侵入防止柵設置作業



大石町長

町長行政報告

- 1 地域経済の活性化
- 2 健康福祉の充実
- 3 子育て支援・教育環境の整備
- 4 生活環境の充実
- 5 行財政健全化

の5本の柱を重点

町長行政報告

平成25年度主要事業「なごみの里」及び「ひなた荘」新築工事が完了、独居生活者で見守りが必要な方の活動拠点となる調理実習室を備えた交流スペースやデイサービス、ショートステイ対応で構成。また、障がい児(者)の日中一時支援の受け入れも可能。

施設は医療機関などに近い森地区に整備でき、幅広く利用可能な地域福祉の中核的施設となる。

次に、平成25年度3月補正予算及び26年度当初予算を報告する。

補正予算は、林道の道整備交付金事業や住宅耐震改修事業などを前倒しで実施、さらに「頑張る地域交付金」を活用した公共工事の円滑な実施に向け、測量設計委託料を補正予算に計上している。

当初予算は、昨年度に引き続き「自然と共生した魅力と活力のあるまちづくり」を目指し、「生活環境の充実」「地域経済の活性化」「健康福祉の充実」

「子育て支援・教育環境の整備」を核とし、これに合併支援措置が完全になくなる33年度までに将来を見据え「行財政健全化」をも視点におき予算編成した。

具体的には「選択と集中」を重視し、一般会計予算総額は65億4千31万3千円、前年比約3億7千万円の減額、しかし、25年度には前倒し事業が計上されており、消極的予算ではない。

「生活環境の充実」では、安全・安心の確保に向けヘリポート整備の加速、宅配サービスが受けられる買い物支援サービスを行う。

地域経済の活性化は、林業振興の間伐促進補助、高性能林業機械などの整備補助、町産材の家推進事業予算の増額。また、観光振興ビジョンづくりでは、商工会と連携を深め、資源活用観光計画を構築。

「健康福祉の充実」は、予防接種の助成、地域タクシー券助成対象を75歳に引き下げなど講じ、健康福祉の充実を図る。

「子育て支援・教育環境の整備」は子育て応援手当、子育て世帯臨時特例給付金を予算化し、また、小中学校は照明や吊り天井などの耐震安全性を調査する「非構造部材耐震調査」を計画している。

その他、役場本庁舎建設委託予算を計上、4月上旬設計業者を決定し、基本設計に着手。仁淀総合支所も用地取得費を予算化、池川支所はバリアフリー化やエレベーターの設置など改修を計画している。

住民税非課税世帯を対象とした「臨時福祉給付金」は子育て世帯臨時給付金と同様、負担の影響に鑑み、暫定的・臨時的措置として所要額を計上した。

平成17年の合併時策定された「まちづくり計画」期間が終了するため、新たに作成に着手する。合わせて「法律に規定する」地域活性化計画を策定、農山村漁村活性化プロジェクト支援交付金の導入を、予算化した。この計画により仁淀川町のビジ

ョンを明確に示し、未来につながる魅力と活力ある町づくりを力強く進める。また、27年度の合併10周年記念関係予算、今年11月森分団全国大会出場経費も計上している。

以上が26年度の特徴的な予算で、町道整備ほかの基盤整備や移住定住対策、地域観光推進なども引き続き、着実に推進する。

続いて、「マイナンバー」制度について、同制度に関する法律が公布され、行政機関などが効率的な情報の管理、利用、迅速な情報の授受により行政手続きの簡素化となるが導入にはシステムの根本的な見直しが必要。平成27年度末にテストができる環境構築が望まれ、準備経費を計上している。

地域おこし協力隊は、現在4人が在籍、移住・定住事業の推進や、空き家活用、日曜市の出店、特産品PR活動を行い、成果も現れている。

平成26年度 当初予算

歳出（支出）

一般会計予算	(単位：千円)
人件費	1,309,095
扶助費	467,664
公債費	979,442
維持補修費	61,138
投資的経費	1,293,048
物件費	820,546
補助費等	820,631
繰出金	463,248
積立金	309,141
その他	16,360
合 計	6,540,313

歳入（収入）

一般会計予算	(単位：千円)
町 税	539,911
分担金・負担金	42,257
使用料・手数料	69,672
その他	38,561
繰越金	50,000
地方譲与税・各交付金	152,700
地方交付税	3,350,000
国・県支出金	896,148
繰入金	571,664
町 債	829,400
合 計	6,540,313

読み方 例・人件費 13億9百9万5千円

予算の使い道



生活環境の充実

子育て支援



地域経済の活性化



健康福祉の充実



生活環境の充実

承認・可決(否決)された議案 Q & A

— 第 1 回 (2月) 臨時会 —

○専決処分の報告

■平成24年度(繰越)社会資本整備事業仁淀川町西久喜団地改修工事

変更前の金額より、
万3千円増額し、6千358 216
万8千円。

契約の相手方
有限会社 西田土建

トイレ内配水管取替え
工事の追加、屋上防水工
法の変更など。

問 若藤議員

西久喜団地を改修後、
以前より、お風呂の入り口
の天井が低くなり、170 cm
の身長者の頭にすれす
れ。ガステーブルの設置範
囲も狭くなり、火を点けた
時に危ないと聞くが。



答 吉田仁淀総合支所長

ユニットバスに変えた
ため、上部にも補強工事
が必要となり、以前より
天井が低くなっている。

コンロ台も以前より狭く
なったが、台所回りには
不燃材料を使用している。
(承認 全員)

○平成25年度補正予算

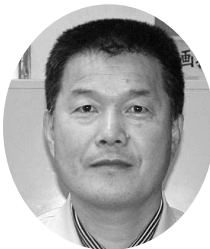
■平成25年度仁淀川町
一般会計補正予算(第
5号)について

3千122万円を減額し、
79億7千682万円とする。

安居溪谷トイレ給水管
敷設工事費80万7千円の
補正など。

問 若藤議員

鹿森の区長が、桜から
鹿森へ下りる道の立木が
枯れて危険と役場に訴え
たら、お金がない、こん
な事やりよったら果てが
ないと言われた。と聞い
たが。



答 大野産業建設課長

今のところ撤去する予
定はない。お金がないと
は言っていない。

答 大石町長

本当に危険な状態であ
れば、所有者の理解を得
て、町も考えていく。

問 西森常晴議員

庁舎建設について、プ
ロポーザル参加のハード
ルが高い。ハードルを下
げ、たくさんの方の選択肢が
できるような考慮できない
か。



答 竹本総務課長

大きな建物を建設した
実績がある会社という条
件を付している。4、5
社くらいは応募があると
考えている。

答 町長

新庁舎は、町づくりの
基礎となる非常に重要な
建物で、相当の面積もあ
る。業者もそれなりの実
績、能力が必要だ。町の
考え方も示しながら良い
ものにしていく。

問 竹本議員

庁舎建設は、仁淀川町
の財産である木材を多用
し、CLT工法を採用す
ればどうか。

答 大石町長

CLT工法の高層建築
については、まだ日本で
認定されていない。全体
的に木造でいなくても、
内装は大いに木材を使
いたい。

問 藤村議員

下名野川地域の集会所
の整備工事の内容は。



答 片岡企画課長

地域集会所を整備する
ための土地の購入、造成
工事、設計管理業務、建
設工事。
現在、造成工事まで終
了、工事の完了は来年度
になるため繰越明許費に
上げている。

○工事請負契約の一部 変更

■平成25年度道整備交
付金事業町道泉線改良
工事

変更前
5千139万7千円
変更後
5千859万9千円

契約の相手方

株式会社 西森建設
(可決 全員)

問 片岡智准議員

契約金額の変更前と、
変更後の誤差について説
明があったが、この誤差
は業界では常識なのか。



答 岡崎仁淀地域振興課長

土質調査の結果設計変
更を行い、いくつかの工
法を経済比較もして、金
額増となっている。
(可決 全員)

承認・可決(否決)された議案 Q & A

— 第2回(3月)定例会 —

○専決処分の報告

■平成25年度仁淀地域
高齢者福祉施設(ディ
棟)新築工事

契約金額

121万円増額し、1億6
千92万円。

契約の相手方

(株) 上岡工務店

■平成25年度生活近代
化事業土居簡易水道基
幹改良工事

契約金額

323万円増額し、6千203
万円。

契約の相手方

栄宝生建設(株)

○条例制定・改正

■職員の高齢者部分休
業に関する条例の制定
について

問 竹本文直議員

利用実態は、希望はあ
るのか。

答 竹本総務課長

今回、条例を制定し、
初めて適応していく。

(可決 全員)

■仁淀川町公の施設に
おける暴力団の利用を
制限するための関係条
例の整備に関する条例
の制定について

(可決 全員)

■仁淀川町一般職の職
員の給与に関する条例
の一部を改正する条例
について

55歳を超える職員の昇
給及び給与構造改革にお
ける経過措置について見
直しを行うもの。

(可決 全員)

■職員の修学部分休業
に関する条例の一部を
改正する条例について

部分休業できる時間
について見直しを行うもの。

(可決 全員)

■仁淀川町委員会委員
等の報酬及び費用弁償
に関する条例の一部を
改正する条例について

バイオマスエネルギー
地域システム化実験事業
の終了に伴い、バイオマ
スエネルギー推進委員の
項を削除するもの。

(可決 全員)

■仁淀川町手数料徴収
条例の一部を改正する
条例について

印鑑登録証及び航空写
真の交付手数料を新たに
設けようとするもの。

(可決 全員)

■仁淀川町社会教育委
員の定数及び任期等に
関する条例の一部を改
正する条例について

社会教育法の改正に伴
い、社会教育委員の委嘱の
基準を条例で定めるもの。

(可決 全員)

■仁淀川町山村自然楽
校しもの郷の設置及
び管理に関する条例の
一部を改正する条例に
ついて

消費税及び地方消費税
の税率引き上げ並びに、
宿泊料金の定休日割増を

設けようとするもの。

(可決 全員)

■仁淀川町簡易水道事
業給水条例の一部を改
正する条例について

消費税及び地方消費税
の税率引き上げに対応し、
従来の消費税等を含む表示
から、消費税等を別途加算
する表示に改めるもの。

(可決 全員)

■仁淀川町観光センタ
ー等の設置及び管理に
関する条例の一部を改
正する条例について

1人で1部屋使用の場合
の追加料金を新たに設
けようとするもの。

(可決 全員)

■仁淀川町バイオマス
エネルギー推進委員会
設置条例を廃止する条
例について

バイオマスエネルギー
地域システム化実験事業
が終了した事に伴うもの。

(可決 全員)

■仁淀川町国民健康保
険条例の経過措置に
関する条例を廃止する
条例について

合併後、経過措置5年
の時効が経過した事によ
り廃止するもの。

(可決 全員)

○指定管理者の指定

■仁淀川町安居溪谷森
林総合利用施設の指定
管理者の指定について

団体名
(株) 仁淀ブルーカン
パニー

指定の期間

平成26年4月1日～
平成27年3月31日

(可決 全員)

■仁淀川町池川439交流
館の指定管理者の指定
について

団体名

池川439 LOVE

指定の期間

平成26年4月1日～
平成28年3月31日
(可決 全員)

■仁淀川町コミュニティバスの指定管理者の指定について

団体名
(有) 仁淀川観光

指定の期間

平成26年4月1日～
平成27年3月31日

(可決 全員)

問 片岡政徳議員

指定管理者が変わり、指定管理料が400万円ほど高くなっているがなぜか。運転手などは変わらないのか。

答 片岡企画課長

消費税の関係と、諸経費がかかってくるため指定管理料が上がっている。現在の運行状況をそのまま引き継いで行っている。

■仁淀川町高齢者グループホーム「よりあい」の指定管理者の指定について

団体名
医療法人一心会 安倍病院

指定の期間

平成26年4月1日～
平成29年3月31日

(可決 全員)

○平成25年度補正予算

■平成25年度仁淀川町一般会計補正予算(第6号)について

113万円を追加し、79億7千796万円とする。

■平成25年度仁淀川町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について

2千470万円を追加し、10億1千381万円とする。

■平成25年度仁淀川町国民健康保険特別会計直診大崎診療所勘定補正予算(第2号)について

256万円を追加し、2億2千621万円とする。

問 西森常晴議員

大崎診療所は耐震化がされていない。人の命を守るため急ぐべき。

答 大石町長

耐震化も含め、地域医療の充実を図る上から、診療所のあり方を検討しており、県とも相談している。早期に結論を出す。

■平成25年度仁淀川町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)について

122万円を減額し、1億2千370万円とする。

■平成25年度仁淀川町観光センター等管理運営事業特別会計補正予算(第3号)について

300万円を減額し、2千536万円とする。

問 竹本文直議員

類似施設は指定管理で行っているが、なぜここだけ直営なのか。

答 岡崎仁淀地域振興課長

平成24年まで指定管理で行っていたが、法人格の改正、資料館の関係と、指定管理を検討しても金額的な問題で、民間の方に手を挙げてもらえない。

○平成26年度予算

■平成26年度仁淀川町一般会計予算について

65億4千31万円と定める。

問 片岡政徳議員

町内のヘリポートの利用状況と、今後できる5カ所の場所は、二ノ滝のヘリポートは、あそこまで行くのが難しいが。

答 総務課長

消防の報告では、本町が近辺ではヘリポートの整備率が一番高く、利用率も上がっていると聞いている。

26年度の整備箇所は、加枝、相ノ谷、織合、久喜、遅越を予定。

アクセスも含め、利用しやすい環境に整備するよう地区と検討していく。

問 野村安夫議員

下土居地区に消火栓が十分でないと思う。その他の地区でも、消火栓、防火水槽など十分か。

答 総務課長

地区から要望があれば協議しながら整備している。下土居は、昨年1件消火栓を整備した。また、必要であれば支所に要望を。

問 片岡智準議員

補助などによる間接支援ではなく、行政が直接参加し、地産地消、高齢者支援、林業支援、福祉支援、移住支援などのプロジェクトを編成してはどうか。

公債比率が基準を少し超えている気がするが。

答 町長

将来を見据えた町づくり計画、地域活性化計画を26年度には策定する予算を計上している。

実質公債比率は、県下でも上位に位置する健全な財政状況。

問 若藤敏久議員

一ノ谷の2棟のハウスの内1棟は休業している。補助事業でこの状況はよいのか。北浦の公園の借地の契約が切れるが、年間320万

円余りの借地料に財政そのものが困窮してくる。早急に解決を。



答 津野池川地域振興課長

一ノ谷のハウスは、補助事業を導入し建設しており、ハウスは利用していないといけない。食品加工施設の計画もあり、現在結論がでない。北浦の公園は、27年の3月に借地の契約期間が終了する。売却を要請したが、地主から借地のままと回答を得ている。



答 副町長

トマトハウスを移転し、食品加工施設の拡大も検討している。今しばらく現状のままで。

問 若藤議員

食品加工施設の拡大に、町の持ち出しが何億にもなると難しい。まず、休んでいるところを動かすことが町としての大前提で検討を。

北浦の公園は、ざっと計算しただけで、今までに5千800万円余りの借地料を支払っている。

町長の考えは。

答 町長

一ノ谷の食品加工施設は、本町の農林業の振興になくはない施設。整備には、国、県の有利な事業が活用できるよう、地域活性化計画で検討する。

借地については、合併時から仁淀川町のそれぞれの借地について解消を図ってきた。

北浦公園も、本当に必要な場所は売却してもらい、使わない部分は返却したいが、売却について地権者の理解が得られない。公園の整備は、国の補助事業で行っており、これを放棄する事もできない。

問 竹本文直議員

区長、地域長は本町に

何人いるのか。地域長の役割は。

新設される買い物支援サービス、対象年齢、個人負担は。

町文化協会に所属している団体数は。

答 総務課長

区長は約160人。地域長は仁淀7人、吾川1人。地域長は、広い地域の要望を取りまとめ、地区運営をしている。

答 企画課長

買い物支援サービスは、商工会が行う事業に助成を行う。商工会では、対象年齢の制限は考えていない。県と町も助成するが、宅配に個人負担はかかると聞いている。



答 谷平教育次長

文化協会は、仁淀15団体、吾川13団体、池川9団体。

問 竹本議員

区長が地域を把握している。同じ役目の人を構える必要はない、二重行政だ。

買い物支援サービスには、年齢制限を加えていくべきだ。人間、楽になり過ぎると動かなくなる。個人負担はなるべく軽減を。

文化協会の助成金37万3千円では、各団体細部には1万円程度になる。カルチャーに力を入れていくべきでは。

答 総務課長

区長と地域長の仕事は違うが、なお、検討する。

答 企画課長

動ける方は買い物に行くので、現在のところ対象年齢は決めていない。ただ、支援サービスはまだ始まっていないので、検討していく。負担金は、県からの助成がなくなる3年後を見据え、商工会の方で考えながらやっていく。

答 教育次長

町の活性化からみても、新しい取り組みに耳を傾け、文化協会の支援に一層力を入れていきたい。

問 西森常晴議員

レンタルハウスの補修費は補助対象にならないのか。

答 町長

災害などには支援があるが、補修は補助の体制ができていない。県にも考えてもらっている。

(可決 全員)

■平成26年度仁淀川町国民健康保険特別会計予算について

9億2千467万円と定める。

(可決 全員)

■平成26年度仁淀川町国民健康保険特別会計直診大崎診療所勘定予算について

2億4千831万円と定める。

(可決 全員)

■平成26年度仁淀川町介護保険特別会計予算について

11億9千746万円と定める。

(可決 全員)

■平成26年度仁淀川町後期高齢者医療特別会計予算について

1億2千504万円と定める。

(可決 全員)

■平成26年度仁淀川町簡易水道事業特別会計予算について

1億354万円と定める。

(可決 全員)

■平成26年度仁淀川町農業集落排水事業特別会計予算について

4千731万円と定める。

(可決 全員)

■平成26年度仁淀川町観光センター等管理運営事業特別会計予算について

3千821万円と定める。

(可決 全員)

○その他

■高吾北広域町村事務組合の共同処理する事務の変更及び高吾北広域町村事務組合規約の変更について

平成26年10月1日から、共同処理する事務に、特定相談支援事業及び障害児相談支援事業を追加するもの。

(可決 全員)

■町道の認定について

路線名

桐見川白石川線

延長

1万4千160 m

本路線の実績により、町道として管理する事が望ましいため。



土佐町役場（研修会にて）

日 記 帳

25年12月	3日 議員懇談会
3月4日	7日 第1回臨時議会
6日	12日 高知県町村議会議長会 理事会（高知市）
26年1月	21日 高知県町村議会議長会 第65回定期総会
2日	24日 高知県町村長・町村議 会議長大会（高知市）
6日	25日 総務教育民生常任委員 会視察研修
21日	25日 全員協議会議会運営委 員会
26日	26日 消防出初式
	3月
	1日 佐川高校卒業式

議長一口メモ！

この度の選挙で、新人議員が4人当選され、議会に新風を！

新人議員は、強い信念と是々非々の誠心を持ち、人に対しても心遣いと配慮ができる。

議会も変わることができるようでしょう。

今後とも、町民の期待に沿うような議会に努めてまいりますので、ご指導をよろしくお願いいたします。

岡田 良成

編 集 後 記

この度の議会だより第35号の編集にあたり、ひとこと……。

編成には議長を始め、それぞれ議員の意見を聞き「議会だより」らしさを主眼におき、発刊することになりました。

困ったことは、議場でされた議論（発言）が紙面の都合上、相当割愛されたことです。限られた字数の中で、できるだけ発言の趣旨などを損なわず、町民の皆様にも忠実に知らせることに心がけ編成しました。

しかし、臨場感のある答弁のやり取りなど、議場の雰囲気をお伝えするところまではできず、少し心残りがあります。

今後は、町民の皆様がたにもご意見をお寄せいただき、紙面の充実をはじめ、さらに前進した「議会だより」の編集に努めてまいります。

ぜひ、一読いただきまして、ご意見などがございましたら議会事務局までご連絡ください。

議会だより編集委員会
委員長 片岡 智準